

# 甦った女神

加藤 幸久(茅野市)

## 1 天空に目映く星を見上げたら

ハヶ岳の裾野に月が散らばった  
それは五千年前の月明かり  
緑の大地に降り積もった  
光が折りなす幻影なのか  
言葉にならない感動伝わる  
いつしか森は命を育て  
素敵な知恵が芽生え栄えた  
祭詞が埋めた縄文土偶  
癒される小鳥のさえずりさえも  
心に響き、心時めく  
神々しく甦ることを誓った

## 2 黒光りする仮面の土偶が

土の中から掘り起こされて  
五千年の眠りから目覚め出た  
謎を秘める縄文模様  
仮面の女神と名付けられ  
優しくそっと抱えられた  
何を伝えてくれるのか  
縄文の風が漂った  
いにしえに深く心奪われて

女神の言葉に耳を傾けた  
そっと囁き呟いた  
私は仮面の女神よって

### 3 太陽に照らされた

仮面の女神に祈りを込めて  
大地力強く 村人が語った  
緑の大地に生きようと  
祭りの響きに、立ち昇る炎  
素晴らしき仲間が  
喜びと共に甦った  
縄文の時が今を彩る  
星に包まれた光の中に  
仮面の女神が照らされた  
穏やかな時の流れが  
茅野の夜空に輝いた

### 4 森の苔が光る時

闇は消え去り  
朝日が昇る  
覆い尽くす白い光が  
人は集い高く炎を立ち昇らせる  
手を合わせ君が歌うよ  
永遠の時に向かって奏でよう  
目を閉じて仮面をかぶり

天に向かって仮面が誓った  
全ての人に知られしことを  
時を超えて甦ることを  
仮面の女神が 今甦った。